

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100659		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)		
所在地	〒020-0826 岩手県盛岡市神子田6-12		
自己評価作成日	令和3年9月	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビングにゆったりと皆で楽しく集う場、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭には畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしが出来る様に支援しております。また、協力医と訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。医療機関との協力体制をとり看取りも行っていきます。地域での関わりでは、夏祭り等の協力や参加、町内の避難訓練や施設の避難訓練をお互いに参加し合う等、地域の繋がりがも持ちながら会社としての理念「共に和み、共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざした施設を目指しております。安全で快適な暮らしが出来るよう、職員一人ひとりの質の向上を図りながら取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は北上川沿いの住宅街にあり、1階フロアと2階フロアの2ユニットで、あるがままの利用者を受容し、共にあたたかい暮らしを育んでいる。事業所自慢の公園で散歩やおやつタイムが日常的に行われたり、自家菜園で収穫した野菜を旬の食材として活用している。居間兼食堂は広いスペースでエアコンで温度管理され、加湿器を利用したり、程よい採光で快適な環境に配慮している。コロナ禍の現在、家族等の面会が困難になり、リモート面会で対応している。毎月発行している「あったかいご神子田マルシェ新聞」で、行事や日常の様子を写真で報告したり、利用者個々の体重等、医療面も記入して報告するなど、家族との絆が途切れないように支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを心がけている。	会社の理念「共に和み共に生きる」を基に、職員は事業所の共有理念として「心・和・楽・笑」と定め、更にフロア毎に運営理念を掲げている。理念の意義を会議等で話し合い、理念に基づいたサービスの提供に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、現在交流はありません。コロナ禍前は、行事に参加させていただいていました。日常的ではありません。	事業所は、地域の一員として自治会に加入し、回覧板や掲示板を通じて地域の情報収集にも努めている。例年行われていた地域の万灯まつりや事業所主催の夏祭りは利用者の楽しみの一つだったが、コロナ禍のために取りやめとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方に情報提供している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でいただいた、ご意見を職員全員で把握しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は民生委員等、地域の代表者や地域包括支援センター職員、家族で構成され、年6回開催している。現在はコロナ禍のため、書面開催の形をとっているが、各委員から適切な意見や提案などが返信され、サービス提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や新聞を届け、実績報告をしている。	福祉に関連した情報を受けたり、事業所の実情を報告している。また、運営推進会議に地域包括支援センターからメンバーとして出席しているため、運営状況や課題等を伝えることが円滑に行われている。要介護認定申請等の書類はコロナ禍のため郵送で提出し、市からの連絡等はその都度メールで送られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の研修を行い、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践するため、指針を作成し身体拘束廃止委員会を設置している。委員会を定期的で開催し、具体的な禁止行為について話し合い、委員会が中心になって内部研修等で全職員の理解・周知を図っている。玄関の施錠は一般家庭と同様に夜間にのみ施錠している。	身体拘束廃止のための内部研修会では「スピーチロック」の話題が多く話され、各階の管理者はこれを課題として取り組んでいるが、何気ない言葉や行為は思った以上に利用者を傷つけることもあることから、適切な支援方法について、早期に取りまとめられることを期待したい。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本的には、利用者に対して思いやりのある接し方が出来ているものの、細かい部分において、一部虐待に繋がる言動等が見られる。その為、勉強会や会議等で見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員との学びの機会はないが、普段の業務の中で、各制度や事業に関する情報を積極的に発信し、職員間で共有することを意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明を心がけているものの、家族側が十分に理解できていない場面もあった。その為、後日改めて説明を行い、納得して頂けるよう努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	概ね反映できている。 家族からの要望があれば、出来る限り対応する様に努めた。	事業所が毎月発行している広報誌「あったかいご神子田マルシェ」は各月の行事や利用者個々の現況を掲載し、家族が要望や意見を出しやすいように工夫している。また運営推進会議に家族代表も参加しているため、その席でも要望や意見を表せる仕組みが機能している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議や必要に応じて話し合いの場を設け、反映されている。	管理者は職員からの意見や提案を傾聴することを常態としている外、年に2回個人面談を実施して職員個々の想いを把握している。また、職員用の意見箱を設置して幅広い意見等を募り、可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の現状、職員勤務状況等、個別面談での職員の声や状況を伝え、キャリアパスを取り入れている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状態や能力に応じて研修や勉強会への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防の為同業者との交流は出来ていない。短期研修においてのみ行き、情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の声になるべく耳を傾けると共に、各職員と情報共有を行いながらサービス案を思案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて家族へ連絡、相談し利用者へのサービス向上に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況の変化に応じながら、別サービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスを提供しつつ、利用者からも教えを請う場面を作ることで、安心と信頼関係の維持に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族側からの協力が得られない場面もある。その際は、職員間で出来る事を本人に望みに沿いながら行っている。		

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の望みに沿いつつ、施設内で出来る事を提案、実施している。	盛岡城跡公園の散歩や市内繁華街のデパートでの買い物等のほか、利用者の思い出の場所にドライブし、これまでを懐かしむための支援を行っている。家族との面会は、コロナ禍のためにリモート面会としているが、利用者には馴染めない様子が窺える。事業所は可能な限り利用者の意向に沿える様な支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行っていると思う。 日常会話等、意志疎通できるよう会話の中継役になり、コミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もお越し下さった家族とは、利用時と同じ様に接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行っていると思う。 本人の希望は何かを日常生活や会議などで情報共有し把握に努めている。	利用者の何気ない動作や会話から本人の思いを汲み取り、さらに会議の際に職員間で情報を把握し直した上で共有を図っている。意志疎通が困難な利用者であっても、家族からの情報を参考に、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや本人、家族の話から情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートや日常から情報収集し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活から課題等を抽出し、モニタリング後、課題によっては、本人、家族、医師等と相談し介護計画を作成している。	介護計画は医師の意見や家族等の要望を取り入れ、管理者を中心に会議等で職員と話し合い、利用者本位の内容で作成し、職員間で共有している。計画を定期的に見直し、現状に即したサービスを提供している。コロナ禍もあり、家族にはプランを郵送し現状や変更箇所を確認していただいている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わった事や気づき等では、記入し共有してる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で意見交換をし、知恵を出し合いながら、ニーズに応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設なので地域資源を利用する機会は少ないが、安全で豊かな生活が送れるよう相談しながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の状況に合わせて訪問診療も取り入れ、連携を取りながら支援している。	受診は利用者・家族の希望により行われ、現在は3名の利用者が入居以前からのかかりつけ医へ家族の付き添いで通院している。受診内容は「受診連絡表」により医師、事業所、家族で共有している。協力医療機関では月2回訪問診療に訪れ、また訪問看護師は毎週1回来訪して利用者に適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、1週間の状況報告をし、緊急性がある場合は、その都度、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、管理者が訪問したり、家族や病院に電話して状態把握している。退院は生活に支障がなければ早目に受けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末について、本人との話し合いはまだ行っていない。理解できる方には、行っていくべきかもしれない。 医療関係者、家族との連携はとっている。	事業所は協力医療機関と連携し、利用者の重度化や終末期に対応するための「看取りの指針」を作成し、事業所内会議の中で随時研修し、職員への周知を図っている。利用契約時に家族等に指針に沿って事業所の方針等の説明を行い、理解を得ている。事業所として、これまで20件前後の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化に気づいた場合の対応、手順、医療機関との連携体制は確立しているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は年2回、水害は年1回実施している。 地域との協力体制は出来ている。	事業所は盛岡市のハザードマップで浸水想定地域に指定されているため、年3回実施している避難訓練のうち1回を水害による避難とし、夜間想定訓練も行っている。避難訓練は運営推進委員や近隣住民の協力を得て実施している。食料品・水を備蓄して各種災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方の性格等把握し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけで対応を行っている。	職員は利用者との日常的な会話の中で、自尊心を傷つけないような言葉遣いや、排泄時及び入浴時の羞恥心やプライドに配慮し、さりげない対応と声掛けによる支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出来る様な環境作りに心掛け、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、気分を把握、コミュニケーションを取り、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見だしなみや、オシャレが出来る様、支援し時には、アドバイスもしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握、入居者と一緒に準備、食事、片付けをしている。	自家菜園で収穫したり農家から差し入れされた野菜を調理し、食卓に並べることが多くある。お正月のおせち料理や敬老会、クリスマス等、行事食が多彩であり、楽しみながら利用者の出来る範囲で一緒に準備をしている。利用者の状態に合せたきざみ食やおかゆ、ミキサー食の提供もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、バランス、水分量は個々で調整を行っている。好み、旬の物をメニューに取り入れている。刻み、トロミで提供している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと、口腔ケアの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表をもとにトイレ誘導を行っている。トイレで排泄を行って頂く為、介助を行っている。	利用者個々の「生活記録表」を活用して排泄パターンを把握したうえで、表情や動作を観察し、自尊心を損ねないように誘導し、出来る限りトイレでの排泄を支援している。トイレは広く清潔であり、車イス利用者にも十分なスペースを確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録表をもとに乳製品、下剤で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせ日、時間を調整し入浴している。	入浴は週3回を基本とし、個々の都合に合わせていつでも楽しめるように配慮している。利用者の当日の体調を考慮して、足浴、清拭又はシャワー浴も実施している。利用者が同性職員の介助を要望した場合は意向に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音、光、室温等調整を行い安眠が出来る様、努めている。本人希望、体調、前夜の睡眠状況によりベッドで休んでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、指導のもと服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、行事に参加され楽しんでいただいている。コロナ禍で外に出る機会が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族との外出ができていない。希望に沿って外へ出かけるように努めている。	利用者は天気の良い日は事業所内の公園を散歩したり、自家菜園に出て季節を感じている。近隣に朝市やあさびらき酒造所などの歴史のある場所が多くあるが、コロナ禍のなかで今は外出が疎遠になっている。コロナ禍収束後に向けて、以前のように春のさくら鑑賞や秋の紅葉見学も含めて、利用者の希望に沿った外出をどう実現するか検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、お金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった時は、まずは、傾聴し、不安や気になる事をなくしている。希望がある時は、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、空調を整え、常に心地よく過ごせるようにしている。	利用者が一日の中で多くの時間を過ごすバリアフリー設計のリビングは広いスペースで明るく、清潔感が漂っており、エアコンや加湿器で快適な温度環境に配慮されている。畳コーナーの掘りごたつが「和」の安心感を与えている。ソファでテレビを楽しんだり、親しい方とテーブルをはさんでおしゃべりをする利用者もいる。家族が宿泊できる交流室も用意されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ (1F きらり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの様子をよく観察し、その人に合った居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や、使用していた物を持参頂いている。家族や本人の意思を尊重し、ストレスのない居室を提供している。	各居室には電動ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられている。基本的に事業所の方針として、自宅で使い慣れたものや個々の生活に必要な備品、小物等は持ち込みを可能としている。居室にテレビ、座イス、家族の写真、自筆の絵画など、好みのものを置き、居心地のよい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事や、分かる事を毎日の生活に取り入れ、継続している。		